

千葉地本第33回定期大会 主催者挨拶

組合員との信頼関係と労使関係を再構築し、
「組合員のための新しい千葉地本」を目指して職場の声を原点に歩み出そう!

JR東労組千葉地本 執行委員長 下村 悟史

第33回定期大会に結集した代議員・傍聴者の皆さん、そして職場で奮闘している組合員の皆さんに感謝と敬意を申し上げます。

初めに、スト権を背景に格差ベア根絶を目的とした18春闘のたたかいを通じて、労使関係を悪化させ、職場の混乱を招き、そしてスト権を確立していないバスやCTSの仲間にも影響を拡大させ、多くの組合員の脱退・離脱と、組織への不信・不満を持たせる事態を生じさせたことに対し、千葉地本の責任者として深くお詫び申し上げます。そして、言葉には言い表せない思いで今なお東労組の旗のもとに結集している全組合員に、感謝申し上げます。

地本として反省し、失敗の教訓を基に、組合員との信頼づくり、労使関係づくり、東労組の再構築を創り上げる方向性を見出し、皆さんと意思を一つにすることが今大会の課題です。

①18春闘は「大敗北」と総括。ウソやゴマカシ、トップダウンを改め、「現場の声」に正直な方針を創る

千葉地本として「格差ベア根絶」に向けてスト権行使も辞さずたたかう方針を「貫徹する事が正しい」と考え、異論を述べず、疑うことなく進めました。そのような方針と判断の誤りが労使対立を深め、組織への不信・不満を募らせ、2月9日以降、多くの組合員の脱退・離脱を生む事態となりました。

組合員同士が疑心暗鬼となる中、事態収拾を訴える現場に対して方向性を示せず、判断できない地本がありました。しかし3月2日以降、本部方針を同意してきた責任を前提に、組織混乱の事態をおさめるために方針転換を組合員に示し、臨時大会の開催を含めて本部に要請しました。転換した根拠は、上部機関しか見えていない地本に対し、現場の悲痛な訴えによって「組合員を置き去りにしている現実」を突き付けられたからです。なぜこのような事態になったのか、私なりに総括した結果、組織の力量の見誤り、上から押し付ける方針、情勢分析の甘さや労使関係の不勉強など、トップリーダーとしての指導性の誤りを痛感しています。

そして4月12日の本部臨時大会では総括に踏まえ、労使紛争に終止符を打ち、労使関係の再構築と組合員に寄り添い信頼される組織の再構築に向けて取り組むことを決定し、千葉地本としても代表者会議や職場集会で本音の声を受け止めてきました。「“スト権の確立と行使は違う”と聞いていたのに騙された」という不信感、方針が営業や工務の仲間の組織現実を見ず「乗務員ファースト」になっていることへの反発、「格差がついたにも関わらず妥結結果を“成果”として打ち出すのはおかしい」、「短期間であり準備不足を指摘したが聞き入れてもらえない」、「上から下へ押し付ける運動を変えるべき」、との意見でした。一方で「上からの指示は従わなければならない」、「何も考えなかった自分達にも責任がある」、等の意見もありました。そして、多くの意見は「組織混乱や労使対立をおさめてほしい」、「これまでの活動を反省して生まれ変わり、12地本一体となってほしい。しかしどうなるのか不安だ」、という声でした。

運動上・組織上の誤りによって、労使共同宣言の失効、労使関係を悪化させただけでなく、当初の目的である格差ベアも根絶していません。全体では3万人以上、千葉地本では約2,900名の組合員の脱退・離脱により組織の弱体化を引き起こした18春闘は「大敗北」と認めなくてはなりません。

6月13日の本部大会でも「18春闘は敗北」であったことが明確にされ、「組合員のための東労組」を取り戻すために12地本が団結することが確認されました。残念ながら「敗北」と受け止めきれない一部の地本もありますが、正直に敗北であると認めること、そのことを組織全体で共通認識に立たなければ「東労組は生まれ変わった」と信用されません。このことをハッキリさせたいと思います。

②地本大会を区切りに前へ進み、レクや身近な運動で「再加入したい」と思えるJR東労組を目指す

誤解を恐れずに言えば、いつまでも下を向いている訳にはいきません。職場では、会社にモノ言えない「社友会」なる組織が立ち上がったほか、今もなお「考えた方がいい」などの圧力に組合員が苦しみ、一方で要員問題や超勤問題、そして施策が矢継ぎ早に打ち出されるなど課題は山積みです。組合員・家族の利益を守るため、総括の上で前に進まなければなりません。

反省・謝罪は地本大会を一つの区切りとした上で、掴んだ「運動の誤り」を教訓に、組織の現状や力量を受け止め、地道に東労組を再構築することが重要です。組合員の一番身近な関心事である施策については職場集会で議論を巻き起こすと共に、レク・サークルなど組合員が結集できる運動に徹する。その姿を脱退・離脱した組合員に見てもらい「要求実現には東労組しかない」と、再加入を目指すことが大切です。

再加入は簡単ではありませんが、大前提は、いま踏ん張っている組合員を大切にすることです。職場集会や総対話、レクなどを通じて信頼関係を構築し、全員参加型の運動を一から創り上げていきます。

JREU JR東労組千葉地本

2018年7月12日 No. 2
JR東労組千葉地方本部
発行者：下村 悟史
編集者：情 宣 担当
ホームページ http://www.jreu-chiba.jp/



③「施策を止めることが成果」の考えを改め、時間軸を持ち、真摯な議論で労使関係の再構築を目指す

7月3日に会社は「変革2027」を発表し、今後10年間の戦略を打ち出しました。人口減少などの厳しい経営環境の下、働きがいを創出して会社を持続的に成長させると打ち出し、その実現のためには生産性向上が必須としています。いま、駅の業務委託や、AI、ビックデータを活用したCBM導入など矢継ぎ早に進められていますが、それを担うのは組合員です。時間軸やスピード感は否定しません。しかし十分な労使議論と「安全・健康・ゆとり・働きがい」がなければ安全とサービスの向上は実現できません。会社から示された「6項目」を前提に、経営協議会や団体交渉などの場で真摯に議論していきます。

特に大きな課題である「乗務員勤務制度の見直し」については解明交渉が終わり、全系統に関わる手当改正の提案がされ、今後、基本要求进行して議論していきます。しかし乗務労働の特殊性が堅持されなければ、鉄道業の根幹である安全は維持できないと危惧します。8月までに本部-本社間の交渉は区切りとなり、秋には地方交渉と言われています。これまで「施策を止める事が成果」だとしていた施策の進め方を反省し、真摯に臨みたいと思います。

一方、現場では「労働時間管理の緊張感が無くなった」などの報告がされています。ある現場では支社長から「まだ会社と組合は同じ方向を向いていない」と発言があったと聞きましたが、会社に意見を言わず御用組合になれという意味であれば、同じ方向は向いていません。しかし、単に反対ではなく、現場目線で建設的にモノを言う労働組合がなければ、職場風土や施策に歪みが生じ、会社の経営を揺るがす事故・事象として現れます。会社の健全な発展のため、経営のチェック機能として労働組合はなくてはなりません。会社の発展とそこで働く組合員の幸せを実現するため、「立場が違うことを前提に、労使共通の目標に向かって議論を尽くす労使関係の再構築」に向けて取り組んでいきます。

なお、不当労働行為に対しては是々非々の立場で、千葉地本として組合員と共に事実を掴み、話し合いにより解決をするスタンスを明確にしておきます。

④混乱を持ち込む勢力や列車妨害を許さず、安全・安定輸送を積極的に創っていく

12地本一体で組織の再構築を目指す中、弱体化を目論む様々な動きがあります。

一つは「JR東労組を憂う会」なる組織が一部OBにより結成され、JR総連や東労組を批判する文書を千葉地本内で配布していることが発覚しました。苦労の中で創り上げた臨時大会をデタラメ、今の東労組本部を「御用本部」と規定しており認められません。組織混乱を目論む「憂う会」なる組織破壊組織は千葉地本としても断固許さないことを明らかにします。

二つ目は、東日本管内で多発している「列車妨害」です。会社からの協力要請もありましたが、お客さまや組合員の命にかかわる事象であり、労使で協力していく姿勢です。何かあれば連絡・報告・相談を密にして、列車妨害を撲滅する取り組みを強化します。一方、列車妨害を内部犯行と書き立てる雑誌など悪辣なキャンペーンが仕掛けられています。警戒心を高め、安全・安定輸送を労働組合の側から積極的に取り組んでいきます。

「組織の再構築を全うする」ことで責任を果たし、組合員・家族のための「新しいJR東労組」を目指そう

最後に、組合員の皆さんからは「東労組とは何か、会社とは何か、仲間とは何か、人間とは何か、というのがよく見えた」という意見を聞きます。東労組に残る理由も様々です。「労働条件を高めてきたのは組合であり今後必要だ」と考える組合員や、「無所属では何かあったときに不安なので保険のようなもの」など様々聞きます。今こそ東労組に結集する理由を一人ひとりがハッキリさせる時です。多くは「仲間を裏切れない」という意見です。不安はあるけど、踏ん張っている仲間だからこそ信頼でき心強い。組織の方針は間違っていたけれども、これまでの活動の全てが間違いだった訳ではなく、これまで苦楽を共にしてきたからこそ今があります。

今年は人事大会です。今回の責任を私自身取らなければなりません。色々な責任の取り方がありますが、来期ももう一度、組織の再構築に向けて全うしていく道を選びたいと思います。そのことに異論や反論はあると思いますが、指摘は受け止める覚悟です。

身近な関心事である職場環境や労働条件、そして施策などを愚直に取り組み、組織や労使関係の再構築を目指します。そして、過労死促進法といわれる働き方改革関連法の成立や、鉄道の存続に関わる鉄道軌道整備法の改正案成立、そして改憲に向けての国民投票の議論が加速するなど、私たちの生活や仕事に関わる問題を注視し、できることを取り組まなければなりません。その為に東労組が必要です。大会を契機に前に向かって、組合員・家族の利益の為に、綱領にある「労働組合主義」に基づき運動を進めていきます。今大会では職場目線で想いを発言し、皆で創り上げる大会にさせていただくことをお願いして、千葉地本を代表しての挨拶とします。